

透析スタッフのバーンアウトと性格特性

長崎腎病院 長崎腎クリニック

○丸山祐子 津久田明日香 山口由紀 菅実穂 岩井由紀子 米田千恵子
澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【背景】

2009年の本研究会で、我々はメンタルヘルスにおける問題はストレス要因だけではなくパーソナリティ特性(個人の性格)との関連性を報告した。

【目的】

バーンアウト調査と新性格検査を実施し、メンタルヘルス状況と性格との関連を検証した。

【対象・方法】

全職員176名に留置き法による質問紙調査を行い、有効回答の得られた159名を対象とした。バーンアウト状況をBM測定法で健全群・警戒群・バーンアウト群に分類し、各群における13因子の性格特性の違いを分析した。

【結果】

性格特性として、健全群は社会性・外向性・持久性が高く、バーンアウト群は劣等感・神経質・抑うつ性が有意に高かった。過去2回の調査において、バーンアウトと勤務年数については、勤務5～10年が高い傾向であったが、今回の調査では勤務年数の長い群でもバーンアウトに陥りやすい傾向がみられた。

【考察】

バーンアウトについて、当院における過去の調査と全体の傾向には大きな違いはなく、本分野の困難さが示唆されたものの、性格特性によりバーンアウトの危険性を予測され、今後の対策のヒントを得られたと考える。